

Glocal Tenri



3

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.12 No.3 March 2011

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
個別ネット訪問布教
／深谷忠一 1
- ・ 天理教教理史断章 (63)
その他の文書⑥
／安井幹夫 2
- ・ 天理教海外伝道の資料 (15)
上海伝道関連史料⑮
／深川治道 4
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (27)
新しい“シングル”の思想を宗教から
／金子 昭 5
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (24)
ハワイ人とキリスト教の歴史③
／井上昭洋 6
- ・ 現代ジェンダー論展望 (14)
生殖テクノロジーは救いか
／金子珠理 7
- ・ 宗教・国際協力・NGO (24)
一食平和運動の歩み④
／野口 茂 8
- ・ 天理スポーツ (10)
相撲と天理⑥
／難波真理 9
- ・ オーストラリア通信 (4)
『バッド・ドリーミング』
／土井幸宏 10
- ・ English Summary 11
- ・ おやさと研究所ニュース 12
「お寺 MEETING」で公開対談／第 233 回研究報告会／第 234 回研究報告会／第 18 回宗教研究会／天理スポーツ シンポジウム 2011 案内／平成 23 年度公開教学講座のお知らせ／第 7 回伝道フォーラム「ネパールの天理教」案内

巻頭言

個別ネット訪問布教

おやさと研究所長 深谷忠一 *Chuichi Fukaya*

1960年代にアメリカで学生生活をしていた筆者と日本の家族や友人との通信手段は、専ら航空書簡でした。その航空便も往復に2週間もかかり、これは何時出した手紙への返事なのか?などと混乱することが幾度もありました。電話も海底ケーブルより無線が主力の時代でしたから、電波状態が悪くて相手の言うことが殆ど聞き取れない。「聞こえる?」「聞こえない?」「ああ聞こえる…」などとやっているうちに3分間5,000円などという高額な通話料金がかかってしまう。ですから、当時国際電話を使うのは余程緊急を要する時で、かかってくれば「家族に不幸でもあったのか?」と、緊張しながら受話器を握りしめたものでした。

それから半世紀経った今日のインターネットの時代。アメリカに留学している息子にメールを送れば即日返事がかえってくる。また、スカイプを使えば、お互いに顔を見ながら何時間でも無料で話ができます。彼が日本の神戸や京都の大学に行っていた時より、かえて今の方が濃密な意志の疎通ができています。この数十年の間に世の中は本当に便利になりましたが、その中でも筆者が「世の中進んだな」と一番感じるのが、通信手段の進歩です。

この通信手段の発達による恩恵は、布教活動の上にも及んでいて、先日もこういうことがありました。アメリカ留学前のある日、奈良公園で“においがけ”をしていた息子が、単身日本観光にきていたメキシコ人の若者と出会いました。「近くに天理という所があるから行かないか?」と誘うと、なんと彼は子供の時にメキシコ出張所の鼓笛隊に入っていたことがあるという。それで、彼をおぢばに案内し、神殿参拝後には一緒に回廊ふきをしたり、詰所で歓談をしたりして、次の予定地に送り出しました。

そして1年後、アメリカに渡った息子のもとに彼からメールがきて、「昨年日本に行った時、あなたのお母さんが、『また、ゆっくりいらっしやい』と言ってくれたけど、行ってもいいかな?』と聞いてきたのです。それで、息子から家内へメールが届き、家内が直接メキシコの彼にメールを送り、何度かメールの

やりとりをした結果、ちょうど教会の春季大祭の前日に彼が天理に帰ってきました。

それで、彼は次の日に五條市の教会に初参拝をしたのですが、彼の来訪のことは、前日のうちに詰所主任の家内から教会の一斉メールに流されていましてから、教会では皆が彼を旧知の間柄のように迎えました。それで、彼は素直に教えを聞く気持ちになって、次の2日間に別席を運び、26日には本部の大祭に参拝して、またの帰参を約束してメキシコへ帰っていったのです。

さらにはまた、こういうこともありました。同じ息子が、留学前に戸別訪問の“においがけ”をしていてある婦人と知り合いました。その時は玄関の戸を開けてもらえずにドア越しの話しかできなかったのですが、彼の留学後にその家を訪ねた他の者を通して、彼女がスカイプに興味があることが分かり、息子との間でのやりとりが始まりました。それで彼女は“おぢばがえり”をする気持ちになり、正月のお節会団参に参加したのです。日本での戸別訪問では顔を見せてもらえなかったのが、アメリカからはスカイプで顔を見ながらの話ができて、“においがけ”ができたということなのです。

布教は一人ひとりの“胸から胸へ”というのは永遠の真実です。教祖の親心を真に分かってもらうためには、一人ひとりと個別に心を通わす必要があります。テレビやラジオあるいは印刷物などのマスコミュニケーションで一網打尽に人々を教化することはほぼ不可能です。

しかるに、昨今のネットワーク・サービスは、マスへ個別に接触を持つことを可能にし、今までにはなかった様々なかたちのパーソナルな出会いを実現しています。布教の場面で言えば、世界中何処にいる人にも時空を超えて“においがけ”や“修理丹精”ができる個別ネット訪問が可能になっているのです。

筆者も、ネット音痴を隠蔽せんが為に“布教はアナログの世界だ”などと言いがちなのですが、世界だすけを加速するためには、新しい技術やシステムを有効に使うことも真剣に考えねばならないと思った次第です。